

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872000948		
法人名	(株)キュート		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名(2階)
所在地	〒305-0861 茨城県 つくば市谷田部 3393-1		
自己評価作成日	令和5年 9月30日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にする・地域の人達の交流に参加する」を理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全員で実践している。、利用者が出来る事、出来る事と一緒にやる。家庭のような温かい雰囲気、季節感を味わいながら、笑って楽しく共同生活を送れるよう、職員は協力し支援していく。ホールで調理・お菓子作り、制作・ゲーム・カルタなどをしたり、居心地の良い環境作りを継続して行い、お花見や、季節の風景、空気に触れながら自身の持っている力を維持し続けるよう日々、施設内でリハビリ体操や運動にも積極的に参加できるよう努めている。また、2階フロワーには19歳になるミニチュアダックスがおりみんなの癒やしとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関、各フロアに掲示をし、職員一人ひとりが意識を持って仕事に従事している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でイベント参加や受け入れを控えていた。施設長は地域の自治会に所属し継続した関係性を築いている。今後地域でのイベントが再開されれば参加していく意向。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	よろず相談所として認知症での困りごとの相談や入所の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム長を中心に同地区の区長さん民生委員さんご家族を交え3ヶ月1度の運営推進会議を行っており意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課担当職員と連携をとりながら、地域包括の社会福祉課の担当の方々とは電話だけのやり取りではなく市役所へも顔をだし担当者との意見交換も出来ており協力関係も出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についても正しく理解するため勉強会に参加をしたり、施設内でも話し合いの場を設けている。現在拘束にあたる利用者はいないが家族に説明し了解を得て2階フロアは安全面の配慮から出入り口を施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底	身体拘束や虐待防止について事業者内での勉		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	強会や外部の勉強会に参加し虐待について学び、各ユニットごとに申し送りや空き時間を利用し話し合いの場を設けており利用者の対応に注意を払い意識を持って防止に努め居心地良い施設であるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部勉強会に参加し権利擁護について学ぶ機会を設けている。成年後見制度を活用している利用者は居ないが必要があれば支援する用意は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の重要な説明は利用者や家族の不安や疑問点がないか確認しながら丁寧に説明し、理解・納得をはかっている。また疑問や不安が生じた時は随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時やケアプラン送付時、電話連絡などないか確認している。家族アンケートも年1度行う計画も立てた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア別会議の中で意見を言いやすい雰囲気作りが心にかけている。言い出しにくい意見の場合は目安箱など活用してもらうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのための資格支援や金銭的補助を行ったり、職員が気持ちよく働けるよう個人個人の要望に合わせたシフト作りを行い就業環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つくば地域密着型サービス連絡会の勉強会が再開され年3回予定されているため職員全員が必ず参加できるよう呼びかけている。施設内で全体カンファレンス時や各フロアに伝達、研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため行えなかった地域密着型サービス連絡会の勉強会が再開された。他事業所の職員と交流し情報交換することにより、職員の意識も上がりサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の行動や様子を観察し、自然な流れの中で本人の思いや、願いがくみ取れるよう積極的に関わり信頼関係を気づきながら思いや願いを話しやすい環境づくりを心がけ知りえた事は記録に残し職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮し気兼ねなくゆっくり話ができるようにしている。家族が困っている事、不安な事、要望などに耳を傾けながら、信頼し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について話し合い、健康に関すること、衣食住、意欲や記憶に関することなど多方面からアセスメントし、適切なサービスが速やかに行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、たてながら本人の出来る事を見極め、自尊心を傷つけないように関わりながら関係を築くよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会禁止の時期もあったが、電話で話す機会を設けたりし状況が緩和してからは、時間制限はあるが面会の再開、希望があればご自宅への外出や外泊も可能にし関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、ご家族以外の面会や外出、外部との接触を控えざる負えないが、電話で話ができるよう出来る範囲で支援に努めている。また、たんぽぽ通信を返して利用者様の日々の様子を写真や文章で伝えている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通して、自然体で利用者同士関わり、支え合っている時もある。また、活動や職員の仲介なしで利用者同士が関わっている時は、その時間を大切に、見守っている。利用者同士協力して完成させる事で、個々の信頼性を生み出すよう努めている。孤立しない程度に、ひとりの時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、よりよく生活できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを聞き、何気ない会話、表情、行動などからも、気持ちや想いに気づけるよう記録に残し、職員間で共有し話し合い意思の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報をもとにこれまでの生活歴やサービス利用の経過を把握し入所後は、本人や家族との会話などからこれまでの生活や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、(タブレット)業務日誌に、日々の様子や、体の状態、気分や表情の変化などを記入し、申し送るなど現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体でのカンファレンス、各ユニット間で話し合いで意見やアイデアを出し合いその方にあった支援ができるよう考え介護計画に反映している日々変化があればその都度話し合い記録に残しスタッフ間で共有し対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で、本人がよりよく過ごすため会話や、生活動作、様子など把握に努め、変化があればよりよいケアができるよう話し合い記録し、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、訪問看護、訪問歯科、移動美容室など利用し、通院時の同席や家族に代わっての付添なども出来るだけ柔軟に対応して一人ひとり必要に応じた支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	人混みを避け季節ごとに桜やアヤメ、コスモスなど地域資源を活用し自然の風景地へのドライブや食事に出かけ楽しむことが出来よう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院があるが、希望があれば、入所前のかかりつけ医の往診や受診も受けている。状態の変化があれば、連絡しすぐに対応できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用している。施設職員と、訪問看護師との連絡に訪問看護記録表を使用し、1週間の間に変化のあった利用者様の状態を記録し伝えもれがないようにし、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。夜間や判断に困った時には連絡をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から情報交換や相談をしながら良好な関係づくりを心がけ、入院した際には病状や状態の確認の連絡を取り、利用者が安心して治療に専念でき早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人、家族と話し合い、家族の意向や、主治医の意見を確認しながら、方針を共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、救命講習を受けていたがコロナ禍のため出来ていなかったが令和4年より再開した。急変時や事故発生時に備えマニュアルを作成し壁に貼り慌てず対応できるようにしてある。起こりうる事例を検討するなど事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害に備えて月1回の避難訓練を実施、気付いた点を話し合い、安全に避難できるように改善している。自治会を通して地域の方々にも協力をお願いして了承を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いを言葉や、表情、態度、声のトーンから察しその状況に配慮しながら自己決定ができるような声掛けを心がけている。訪室の際には声を掛け確認して、ドアの開閉など、プライバシーを尊重した対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいか意思表示が出来るような声かけをし、悩んでいる時はせかさず時間をかけ表情や、仕草など観察し、自己決定ができるように一人ひとりに合った声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて暮らし方を重視し、一人ひとりのペースを崩す事なく希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室を利用し、カットや白髪染めなど希望に合わせている。毎朝の洗顔、整髪時の声かけや必要に応じて介助を行っている。洋服は、季節ごとに衣替えをし、洗濯後は、同じものが繰り返にならないように、気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、毎日の食事メニューをホワイトボードに記入してくれたものを掲示し、内容を見て会話したり皆で共有の楽しみとしている。食事作りや片付けを職員と一緒に協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を見て、食事の量や形状の調節、食事や水分の摂取量の記録をし職員間で把握し適切な支援を提供できるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯洗浄など各利用者様に応じた支援を提供している。毎食後、コップの消毒、歯ブラシは滅菌器を使用し清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間、排泄状況の記録により一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い出来るだけトイレで排泄できるように支援している。利用者様の状況に応じて夜間ポータブルトイレ設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分を多くとってもらう為、毎食時のお茶の他、牛乳、麦茶、コーヒーなども提供している。毎日リハビリ体操やラジオ体操を実施している。便秘傾向の方には、医師と相談し内服薬の調整を行い定期的な排便があるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、その日の体調や希望で日をずらしたり、入浴順を調整したりと臨機応変に対応している。また菖蒲湯、柚子湯などを楽しめる機会も設けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動を無理なく促し、規則正しい生活を支援している。昼間も体を休めるため横になり過ごす事もある。安全で安心して眠れるように居室の温度管理をし寝具の洗濯をこまめに行い清潔保持に努めている。また、夜間眠れない方は、主治医に相談し、眠剤を服用し不安なく休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬についてのファイルがあり、詳しく確認できるようになっている。服薬変更や症状の変化があった時は連絡事項表に記録し申し送りを行い、服薬時には誤薬のないよう十分に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が張り合いや喜びを感じ、本人にとって意味のある生活が送れるよう役割や活動(制作、調理、掃除や洗濯干し、たたみ、歌、塗り絵)の様子を記録にとり参考にしていく。職員の一時的な観点からではなく、本人の思いや感じ方を大切にしている。役割を持つ事でメンタル面が安定する方には継続できるよう支援し、外出や散歩での息抜きの時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナではは、日光浴、建物周りの散歩、車でのドライブや、人混みを避けての外出など出来る範囲で支援していたが、今年に入ってから花見に出かけるなど外出の機会を増やしていった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるため、基本的には金庫で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある時は、施設の電話を使用できるように支援している。また、家族や知人からの電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は適温で過ごせるように管理しており、除菌・脱臭つき空間清浄機を設置している。ホールや廊下には利用者の共同作品や写真を、利用者の目線にあわせて掲示している。生活感や季節感を感じながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。また食事の際には、心地よい音楽を流し、リラックスして食事が楽しめるよう支援に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルとは別に、ソファが2つありテレビを見たり休んだり、テーブル席では、利用者同士楽しく会話されたり、居室でテレビを見たり本を読んだりそれぞれが自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、机や椅子、テレビ、棚など馴染みの物を使用している。壁には制作で作った作品を貼ったり、物をおいてそれぞれが居心地良く過ごしているが、状態の変化により家族と相談しながら本人の安全を第一に日々変化せざる負えない場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁には手すりを設置し、玄関には、椅子を置き靴の脱ぎ履き時の安全に配慮し、各居室には、名札をつけ、トイレにはわかりやすい表示や目印をつけている。動線を確保し、車いす使用や、歩行時の安全確保に努めている。		